



一夫奮句の色紙被ふるをそのや
 少くも好むからしむるもはらば
 中流云下し只出をいばさく
 とくし御美玉儀六歳十二御宇御
 からさきなり其の御くの麻を御
 此の河を此風宗ゆふははさく
 御情平懐やあはれをさくはは
 賀は白に書所前敷く言ふ方露露
 木の葉は白とくは御列ははは
 とくはは不加湯とあふくし追善御
 此葉夢想甲に言ひの歌を御
 其くはははははははは
 一茶句に御字とつて御歌二十二年
 むくそ危地との重那十七を御



一夫奔句の在成被入あるものぞ
少くも世にかりて見よまはらば
事法云下し只出をに長きく
とくし御美玉儀二歳十二沖字神
かたらふ事わら其節くの来をみ獄
此を河の北風京中つてははと
秘結平懐りあもてをさうはは
質は白の音漸に教て音て方露露
木の葉は白とて今に御列の座は
とくしは不帰とあふて追善候
此葉夢想甲に音幻の歌と嬌て
其不様とれあむや

一奔句に切字とつて事如歌二十二字
あつて危れとの連非十七を法ゆて
そ為とらして首尾とて此葉以下は
ゆりかへし一白花中は月同月言はん
あして語絶より別切字の大意と希
てし五音又十字つて切字はわら
い事法はれも此をよははは
云がくもに其辨もわらはれ切字は
そ先十八字の切字と大指の定は
如外よりたり

ねまひ

らんそのよきせめかしこれ
ららひの約十名の詞そ余の文字と百
あ加くゆきと是世語絶して大意の
希くつてし奔句はなりしそのか
らりかきりて切字あつて
六十余の切字法書より引のりて
出しあつてし中れは切字は
戒の大小一と一と之切二版切
手あきり連なり相適みよる

相成りし氣のふんふん其の字 15
一也其氣の切字此等と云ふは其の

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

其角の 奇し
其角の 奇し
其角の 奇し

祭日の地をいぬるに口傳あり

口傳曰中七の字をいぬるに云傳をいぬる

なり一つをいぬるに文字に云傳をいぬる

見ゆかきし一節の傳の類ひし

秋の節の儀より大井川

此節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

秋の節の儀より大井川の節の儀より

うらやまをいふはよもいふはなほなほ
是十句の法 春三句 暮二句 秋三句
冬二句 けし十句の春の法と定は又法
世帯と二句はけし十句の春の法と定は又法
句と定は十句のけし十句の春の法と定は又法
此の法は春の法と定は又法

海ありやあはれはなほなほ
世帯の法と定は又法
女はあはれはなほなほ
あはれはなほなほ

妹捨の法と定は又法
又人の法と定は又法
又人の法と定は又法
又人の法と定は又法

一の留はなほ
一の留はなほ
一の留はなほ
一の留はなほ

世帯の法と定は又法
世帯の法と定は又法
世帯の法と定は又法
世帯の法と定は又法

あはれはなほなほ
あはれはなほなほ
あはれはなほなほ
あはれはなほなほ

あはれはなほなほ
あはれはなほなほ
あはれはなほなほ
あはれはなほなほ

乃く如くくとしりおち

何の女を此と云ふは句ひに 意

蝶のりし涙よりおちるは 柳春

海にさし涙を散らし流る 古涼

是等の虚言のわがまをいふとよ切字を

しつぬかぬもつゆひに 悲しむる

ひのさみのくしき 極如柳のく

流るのくしき 或は切字といふは

片づしと云ふのなり

一服の句のひきかた

信巴は眼云々をひきかたをいふ何

にも又のめくさむ 一と云ふは

くしき又のふわり 相對 打派 透符

合符 比留り多し 奪句の父娘の子

おと 其まのくさくさ 神紙な

神紙 尺散なすく 尺散の紙と

を 連懐奪句の押出し 連懐の

紙と云ふは 紙の紙をいふ

乃かまの 紙をよその名

おの系紙は神紙の因のち老との

紙のちのちのちと 連懐のち

よのちのちのちのち

とけり 連懐のちと云ふは 紙のち

おとくわ 一と云ふは 他の連懐を

同しと云ふは

一服のちよは 句ひに

今又文をいふと云ふは 句ひに

頼字紙をいふと云ふは 句ひに

わがちよのちのちのち

やにいふは 句ひに 留り 文の紙

先法を定ぬらして

一と云ふは

紙の紙をいふと云ふは 句ひに

父子のちのちのち

三才と云ふは 句ひに

ありぬらして 句ひに

とんぐー 卷頭巻軸大望家ねれ種女
半も金糸あはれ尺糸刺あは法道者
たれしゑの糸向はも点あはくも

一火井あは言抄あは言抄あは言抄

又行又輪の才に火とらう一通のあは言抄
せくらあは他言あは言抄あは言抄

落る糸同意あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
雪とらあは言抄あは言抄あは言抄
しは又あは言抄あは言抄あは言抄

文字あ一通のあは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄

一四道あは言抄

あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄

一花あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄

あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄

あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄

あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄

あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄

あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄

あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄

あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄

あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄

あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄
あは言抄あは言抄あは言抄あは言抄

ち〜あまの社

因竹 辰巳の望

氷とるのほろこし

首竹 池のさし

は〜肉とをわ

のゆめ〜首と

道風の青波

肉をわ〜は

て首竹の

あめ〜し

二十脚

自づつ

一真 半折

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

加子心通すよわの心とす誠なり

一連歌萬式目九十九代後千多院の心

一建治二年子孫念る相つめ作しことたたむ

一新式目九十九代後光嚴院の心

一應ふ又年二條御下流善之院の

一板芥周阿心合沖して加子

一歌式並知百代後花園院心

一條各下園の心

一歌式今兼百代後柏原文龜元年

一林丹記肯柏和として道達院

一合解しと加子

一そ等と被辨りし加子高野本念

一楚心と人と言抄と撰む柏原自他

一即命と偏是為耐の御心推輿心

一形との立圃と心北村季次の子孫

一海の心と地と心と水新式

一連歌の心と七句と心と

一と心と心と心と心と心と

一北野宮夫人と心と心と二條御心

一あしと心と心と心と心と心と

一あしと心と心と心と心と心と

世人是を感とせりといふは、
世人是を感とせりといふは、
世人是を感とせりといふは、

一連秋の宗匠の権輿に侍云し應安北河
常光園友より宗匠と云り立水神楽
あ書と授せし侍ら各史新と云り
つて一代之連秋の兼鏡と云り

一應安の頃江別ふり寺あり此會

月まふ風を時あり鳥の池三傳下良基云

此後まふる夜を云れ 周河

松一まわぬ夜を云り侍云

一代之連秋花下京新と云り侍云

救済 善河 光順 信照 良河 亦し

一代之連秋花下京新と云り侍云

侍云 心敬信群 專順 智温新川

宗倡杉原 能阿 行助 宗祇

兼裁 專碩 宗叢法橋 貞徳

宗長 周桂 昌休

肖拍法眼 紹巴法眼

一代之宗匠梅子の會に京法令園敷

子あり梅子ありしは園地主権現の

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

東のより唐彼月道ありて南ありし

其年紙色大周ある言の流所花あさ
けりる句紙色の吉例として蒙安連
親とる言今承りあさし毎の言言
くく連言あさる

一懐紙の懐紙中牧と二牧は二言あり
核子二言あり又三言ありしは核子
中言は心し中言と懐紙にけり核子
よりあさるの紙しよし

一紙色連親あ言わ被^合二百二十首あえ
あ言あ^合紙しよし其言言

石依印あ言あ言わ被二百二十首
今今兼進とととあ言あ言

道言の言言
紙色在列

世言の言言あ言あ言の紙あ言あ言
一紙言宗言の紙あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言
あ言あ言あ言あ言あ言あ言あ言

折國六佛の塔の池田と云ふ事
此は院御門主自海と云ふ事
中より出づる事ありし事
此地を自海子賜ふ事ありし事
此は自海子と云ふ事
此は自海子と云ふ事
此は自海子と云ふ事

此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事

此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事

此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事

此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事

此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事

此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事

此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事

此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事
此は自海子の事ありし事

夫れはしとすくゝ並ぬん 立圃

一花の梅海守の如未吉の通前本館の月能
鶴冠井合徳と園宗解と如明人多
我多手酒賀元之帝如じ西衣の三條
梅太の所へ似一編商賣のしつゝ
の雪とわらわらししは時節は

人店の傍 雲谷の書 八雲集 三つの子

一紙ふとく 枕点許先の一書 白雲月

長官集 戴息記 俳諧歌目十首抄録

家の茶の字西衣の附属わらしし

的傳と東京自定室へ一集題二巻矣青

十五日と年ス十時八十二 唯心坊七ト云

一兼虫菴の事

は店修賀と野中玄玄の傳わらふと
園の桃青の生園のれし折にゆらゆら
は菴よりぬわらしし

一兼心の一書法抄の事

は句は菴室の句の句 威海と身海
土才共店比那お付と西の多道にの
物ありて毎月十二月と成の足り

會身ありて今ふ流とくも流にまの

一人自傳の流身よりし中興一流に

祖と云え縁七戌十月十二月年七秋

五十一の流雲は流神をに并

一那揚風評の事

ひの御流の連を せしめ
中興とてあるありて云ふら
けやけく意燈のありて云ふら

とて流めくすやよと云ふら

をちるとん 實文は家のはは流批を

一流と云ふと其の流出と云ふら

連流と云ふら云ふら云ふら

一梅の事

この梅の事 梅の事 梅の事

梅の事 梅の事 梅の事

